

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「みふね歯科リニューアル」

歯科 医師 岩田 修一

歯科が中央棟にリニューアルして、1年が経過しました。今回のリニューアルでは、外来患者様にも来院していただきやすい歯科をイメージしました。今までは入院患者様の歯科治療が中心でしたが、近年は精神科病床のダウンサイジングがすすみ、外来患者様の比重が増えています。歯科もその流れの中で、今まで同様に入院患者様が歯科に来院されるのを待っているばかりではられません。市中の歯科クリニックをイメージし、リニューアルしていきました。もちろん今まで同様に入院患者様にも快適な歯科医療を提供していきます。今回のリニューアルで外来患者様を意識することにより、入院患者様にもより快適な歯科治療を行うことのできる診療室ができたと思っています。



全体的な雰囲気としては、落ち着いたあるシックな感じをイメージしています。歯科治療は怖いというイメージをもった方が多いので、心が落ち着くクラシック音楽を流し、少しでも患者様の緊張が軽減するようにと思っています。落ち着いた診療室の内観のおかげで、患者様もとてもリラックスして診療を受けられています。

レントゲン撮影装置は今回デジタル化したことで、従来の撮影時よりも放射線被曝量が4分の1程度となりました。従来の被曝量が問題となることがないのですが、患者様のことを考えますと被曝量が軽減できたことは、とても嬉しく思います。また、撮影されたレントゲン写真が鮮明になり、診察時にとても参考になります。医科のCT撮影装置が新しくなった際に、歯の撮影も出来るようになりました。従来のレントゲン写真では3次元の歯や顎の骨を2次元の写真で診断するため、どうしても分からないことがあります。CT撮影装置は全方向から撮影した画像を構築しているので、3次元の歯や顎の骨の必要な部分を見ることができます。



診療用チェアも1台新しくなりました。歯を削る器械などが診療用チェアの後ろの方まで届くため、患者様が車椅子に乗ったままでも治療しやすくなりました。また、病棟のベッドが入るスペースを設けたので、車椅子へ移ることが難しい患者様はベッドに寝たまま歯科治療を行うことができるようになりました。

安全な歯科治療を提供できるよう口腔外バキュームも設置しました。口腔外バキュームとは、入れ歯や被せものの調整の際に発生する削りかすや、治療の際口から出る多量の水しぶきを吸引する器械です。これを使用することにより、清潔な環境で歯科治療を行うことができます。滅菌器も中空の器具や機械の中まで滅菌できる高水準の滅菌器を使用しており、より安全な歯科治療を心がけています。

今後は新しくなった診療室で、今まで以上に患者様のQOL向上に貢献する歯科医療を提供していきたいと思っています。つい最近、看護を中心とした多職種で摂食嚥下機能向上を目指した委員会を立ち上げました。歯科は、噛むという行為に対してのアプローチを行う診療科になります。全身的なことは多職種で連携しながら、歯科治療によって患者様がその方なりに最大限噛める状態となるよう支えていけたらと思います。今以上に患者様が使いやすい入れ歯をお渡ししていただけるように、より入れ歯の治療に力を入れたいと考えています。

最後になりましたが、歯科スタッフ一同当院の患者様また地域の方々の口腔衛生向上に寄与できるよう努力して参りますので、皆様の温かいご支援の程よろしくお願い致します。





院外処方箋発行にあたって

薬局長 直江 正保

平成30年12月1日(土曜日)より、三船病院では院外処方箋が発行されるようになりました。医薬分業の形です。

厚生労働省が医薬分業を指示したのは1997年からです。この概念は明治時代の始めから存在していましたが、医師は処方箋を発行しますが、薬剤師は複数の薬を服用した際の相互作用(薬の飲み合わせにより薬が効き過ぎたり逆に効果が低下したりする作用)や用量を増やした際にかかる副作用等の安全性を考察するのは現物の薬が手元にあり、また薬剤情報を入手出来る環境があるからです。

医薬品の特徴の一つに薬品名があります。ある医薬品が発売されてから十数年経過すると販売特許が切れ、いわゆるジェネリック薬品(同一成分で薬価が安い)が複数のメーカーから発売されるようになります。ここで製薬会社毎に先発薬品のように薬品名を付けていたのでは限界があるので一般名(成分名)の後ろにメーカー名を付けて区別します。この切り替えによる医薬品の取り扱いに主治医や薬剤師に慎重さが必要になりました。

調剤薬局の長所は、三船病院から出た薬と他院からの薬の相互作用(薬の飲み合わせ)や重複(大量の薬品名より同種同効薬を発見する)等のチェックを行うことで

問題があれば主治医に疑義照会を行います。このように安全性と有効性を評価するなどの監査確認後調剤を行います。

ジェネリック薬品への切り替えや剤型(錠剤、粉、液体)の相談も受けられます。患者様には丁寧な説明を受けた後で薬を受け取れることは非常に大きな安心感があると思えます。

病院担当薬剤師は主に入院中の患者様への対応が可能になりました。病棟で使用される内服薬・外用薬から注射薬に至る幅広い医薬品を扱います。先ず入院された時の持参薬の鑑別や退院時薬の情報提供の充実を図ります。服薬指導時は患者様の傍にて使用中のお薬(内服薬、外用薬、注射薬)の説明を行い患者様に安心して頂けるように対話による説明を行います。この業務は以前から実施はされていましたが、可能な限り入院中の患者様への薬物療法の対応を充実したいと考えています。

今後とも薬剤師の技量を発揮し患者様のご期待に沿えるように実行していく所存でありますので宜しくお願い致します。



三船病院医師からのメッセージ・・・



「フローティングタンク」

医師 野口 勝宏

皆さんこんにちは。野口です。私、現在当院は週1回火曜日勤務の非常勤で、常勤先は香川大学になるのですが、一応大学病院なので、医局員持ち回りで抄読会(英語の論文を医局会で紹介する)というのをやります。

先日私にも順番が回ってきて、色々探したところ「フローテーション REST」が全般性不安障害に効くという内容の論文を見つけまして、論文の内容に興味のある方は『Promising effects of treatment with flotation-REST (restricted environmental stimulation technique) as an intervention for generalized anxiety disorder (GAD): a randomized controlled pilot trial』というタイトルなのでネットで検索して下さるとよろしいかと思いますが(無料で読めます)、そんなことより「フローテーション REST」って何だと思いませんか？

フローテーション REST と言うのは、体温と同じ温度に保たれた硫酸マグネシウム水溶液が満たされたタンク(フローティングタンクまたはアイソレーションタンクという)の中に浮かんでリラックスするというものだそうで、タンク内は光や音が遮断されているので、タンク内で浮かんでいると光、音、皮膚感覚、重力などの感覚が殆どない状態になるそうです。

これって、あの、『アルタード・ステーツ』のアレですよ？昔、立花隆が雑誌や著書で紹介してたやつ。と言っても、若い方には分からないかも知れませんね。すみません。立花隆が体験談で「覚醒している状態と眠りの状態のちょうど中間」「無ストレス状態」「一種の体外離脱」など書いているのを読んで私も体験してみたいと思っていたけど出来ずに終わったのが懐かしいです。

このタンク、今、岡山にあるみたいですね。ホームページを見た感じではちょっと敷居が高い印象なのですが、勇気を出して行くことができましたらまたご報告させていただこうと思います。

三愛会トピックス

県庁で天皇陛下からの御下賜金の伝達式がありました



医療法人社団三愛会が行っている社会福祉事業が評価され、平成30年12月19日天皇陛下から御下賜金が贈られました。香川県庁において県知事から三愛会理事長に御下賜金および目録が手渡されました。

御下賜金は天皇誕生日に合わせて都道府県・政令指定都市の各1施設・団体に贈られるものです。香川県では従来社会福祉法人等がその対象になっており、当院のように医療法人が優良な団体・施設として対象となったのは初めての事です。

三愛会では昭和63年に精神保健法が施行されるより前から精神障害者の社会復帰活動や就労支援を積極的に行ってききましたが、法施行後は、福祉ホーム、グループホーム、援護寮、地域活動支援センター、障害者相談支援事業、障害者就業・生活支援センター、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業、就労定着支援事業等を運営しており、精神障害者を始めとする障害者に対する各種支援に取り組んでいます。

三愛会のこのような活動の経緯と実績が評価されたものだと思います。

三船病院 委員会活動紹介

当院の褥瘡対策委員会について

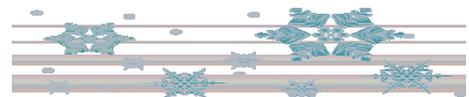
委員長 医局長 三船 義博

当院の褥瘡対策委員会の取り組みについて紹介します。構成メンバーは医師、看護師、栄養士、薬剤師で構成され、月に1回回診を行い、第2水曜日の定例会で褥瘡発生件数、回診状況、指導内容などの報告、検討を行います。主に力を入れていることは湿潤療法の普及です。

では湿潤療法について説明します。熱傷も擦過傷も褥瘡も受傷起点が異なるだけで同じ傷です。つまり治療法は同じです。以前は傷に対して消毒しガーゼを貼って乾かす治療が行われてきました。しかし現在では傷を「消毒しない」「乾かさない」治療が常識となりつつあります。なぜなら消毒は敵である細菌だけでなく白血

球や線維芽細胞といった免疫や組織修復に役立つ味方の細胞も殺すからです。しばらくすると再び細菌は増殖し結果として敵だけに感染を誘発し治りが悪くなります。細胞培養が湿潤環境で行うことを想像すれば、乾かすことも有害であることが理解できると思います。

当院では褥瘡に対して水道水で洗浄した後、食品用ラップを傷に貼るいわゆるラップ治療を行うことで、湿潤環境を保つ治療を行っています。その結果以前と比べ重症な褥瘡発生件数は減少傾向にあります。



《委員会》

- | | | |
|--------------------|---------------------|-------------------|
| ・教育委員会(第1水曜日) | ・衛生委員会(第2水曜日) | ・病院機能評価委員会(水曜日) |
| ・個人情報保護委員会(第1水曜日) | ・業務改善委員会(第2水曜日) | ・倫理委員会(年1回) |
| ・情報システム委員会(第1水曜日) | ・診療録管理委員会(第2金曜日) | ・医療ガス安全管理委員会(年1回) |
| ・クリニカルパス委員会(第1水曜日) | ・薬事審議委員会(第2金曜日) | ・予算管理委員会(年1回) |
| ・地域生活支援委員会(第1水曜日) | ・院内感染対策委員会(第3金曜日) | ・接遇管理委員会(年2回) |
| ・行動制限最小化委員会(第1金曜日) | ・栄養管理委員会(第2水曜日) | ・診療情報提供委員会(随時) |
| ・人権委員会(第1金曜日) | ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日) | |
| ・医療安全管理委員会(第2水曜日) | ・患者サービス向上委員会(第2水曜日) | |



【介護老人保健施設 福寿荘】

「褥瘡防止委員会」

看護師 林 久恵

福寿荘褥瘡防止委員会は発足から早 15 年が経過しました。委員会は医師、看護師、介護福祉士、支援相談員、管理栄養士、介護支援専門員で構成しています。毎月会を開き、利用者の方の現在の状況を話し合い、褥瘡防止に努めています。

主な取り組みとしては、入所前に介護支援専門員と支援相談員による入所前訪問を行い、その情報により使用するベッドのマットを選択しています。褥瘡発生のリスクが高そうな人にはマキシム(褥瘡防止マット)を使用します。入所後、自分で動けない人には予防のために、ナーセントパット(三角形のクッション)を使用したり、2時間ごとの体位変換やビーズマットの使用により、かかとの挙上を行い、局所への圧迫を軽減するようにしています。また、車椅子利用の方には、厚めの柔らかい座布団を使用したり、座位姿勢により仙骨に圧がかからないようリクライニング車椅子に変更したりもしています。

日常生活の中での皮膚の接触、何らかの刺激による剥離を予防するため、手や足をレッグウォーマーで覆って予防する取り組みも行っています。それでも高齢で、皮膚がもろく弱いこともあります。発赤や褥瘡にいたることもあるので、日々の観察、特に入浴時に全身を観察し、早期発見に努め、フィルムで保護したりと状況に合わせた対応を心がけています。

多職種で栄養状態の改善についても話し合い、利用者の方々が快適に過ごすことができるよう、手助けさせていただきます。

【三愛会コミュニティケアセンター】

「中讃西部地域自立支援協議会の現在の状況」

相談支援事業所はなぞの 山田 智子

今回は、はなぞにも参加している中讃西部地域自立支援協議会の現在の動きについて報告させていただきます。自立支援協議会とは聞いたことはあるけれど実際には誰がどこで何をしているのか知らない、分からない、さほど関心がないという方が多いのではないのでしょうか。自立支援協議会は、市町村が単独または共同で設置し、障害者等が地域で安心して暮らしていくための体制整備について、福祉、医療、教育、労働などの関係機関や当事者、家族らが集まり協議をしているものです。中讃西部では 2 市 3 町で 1 つの協議会を設置し、33 の機関や団体、約 40 名で 2 ヶ月に 1 度開催しています。

疾病や障害があっても地域で安心して暮らす、その人らしく生きることを支えるということは決して言葉のように簡単なものではありません。1 人 1 人、1 つ 1 つの事例から学びとり、この地域で不足している支援は何か、どのようになれば安心できる地域となるのか協議を重ねています。対象となる障害は子どもから大人まで、種別も知的、身体、精神、難病、発達、重複と様々なため、幾つかの分野ごと、テーマごとにチームを編成して具体的な課題検討や活動をおこなっています。例えば就労部会、当事者部会、児童デイサービス部会、施設部会、重度心身障害ワーキング、地域生活支援拠点ワーキングなどです。精神科領域では「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議の場」設置に向けて現在、精神部会準備会を開催しています。また、今年度からより身近な地域福祉の担い手である社会福祉協議会も協議会に参加するようになりました。他にも、障害者虐待防止や差別解消などについて各市町より協議会へ提起があり地域の状況を共有しています。協議会での議論が一部の関係者だけにとどまらないよう、1 人 1 人の当事者や日々の支援に関わる支援者、地域住民らの声やニーズと共に進めなければならぬと考えています。

《三船病院からのお知らせ》

○三船病院家族会

今年は 5/12 に開催予定です。

多くの方々のご来場をお待ちしています。

《編集後記》

寒さ厳しい中にも少しずつ日が長くなってきた今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。三船病院の大きかりな改築工事も順調に進んでいます。もうすぐ新しくなった三船病院で皆さまをお迎えできることを楽しみにしております。
(三船病院相談室PSW)